

氏名	大 本 昌 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3378号
学位授与の日付	平成11年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Accumulation of Multiple T-Cell Clonotypes in the Liver of Primary Biliary Cirrhosis (原発性胆汁性肝硬変の肝組織中には複数個のT細胞クロー ンが集積している)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 赤木 忠厚 教授 榎野 博史

学位論文内容の要旨

原発性胆汁性肝硬変(PBC)は非化膿性破壊性胆管炎を特徴とする臓器特異的自己免疫疾患であり、胆管破壊には自己反応性T細胞が関与していると考えられている。7例のPBC患者において、肝組織におけるT細胞レセプター(TCR)のレパトアをreverse transcription-polymerase chain reaction(RT-PCR)法およびsingle strand conformation polymorphism(SSCP)法を用いて解析した。RT-PCR法によるPCR産物は、PBC患者の肝組織および末梢血リンパ球においてほとんどのVβ鎖で認められ、特定のVβ鎖への偏りはなかった。単一のクローンをバンドとして検出できるSSCP法では、PBC患者において肝組織、末梢血リンパ球ともに複数個のT細胞クローンが観察され、症例間で異なっていたがほとんどのVβ領域で観察された。また肝組織、末梢血リンパ球間に同一のクローンが存在していた。PBC肝組織中には限られた複数個のT細胞クローンが存在していたが、症例間においてクローン数および使用されるTCR Vβ遺伝子の種類は異なっていた。

論文審査結果の要旨

本研究は、原発性胆汁性肝硬変(PBC)について、肝局所浸潤T細胞レパトアをRT-PCR/SSCP法を用いて解析したものである。この結果、複数のT細胞クローンの増殖を認めた。この結果は、臓器特異的自己免疫によるPBCの発症の機構解明に重要な知見であり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。